住民主体の実践的避難所運営訓練の取り組み～栄東連合町内会

この訓練は北海道胆振東部地震の教訓を踏まえて、住民自ら避難所を設営し、運営する避難所運営訓練です。行政のみに頼らず、住民が主体的に行動することで、栄東地区の安全安心な暮らしの実現を目指しています。

開設スタッフの集合

学校近くの町内会役員、消防団、PTA などが避難所となる学校に集合し、避難者の受け入れ準備を実施

避難所玄関の開錠

大震災のときは、市職員も被災者。迅速に避難所に駆け付けられるとは限らず、まちづくりセンターに保管されている暗証番号で玄関を開錠

受付班、備蓄物資班の設営

受付班は、教室や体育館を部屋割りして、高齢者用、採暖室、妊産婦用、体調不良者用などの看板を掲示。机などを運搬し、一般受付と発熱・体調不良者用の臨時受付を設置。準備後、避難してきた方々を受付し、避難スペースに誘導

備蓄物資班は、備蓄庫から毛布、寝袋、ストーブ、アルファ化米、クラッカーを備蓄物資置き場や体育館に搬入。発電機や投光器、ストーブなどの配置も行い、発電機を稼働し、投光器を点灯

避難者の流れ

避難者を振り分けて案内

一般避難者は体育館に誘導

家族数に応じてシートを渡す

避難スペースを割り当て

迅速に避難スペースを割り当てる方法が大きな課題

札幌市の運営マニュアルは、避難者1人当たり2m×1mのスペースを割り当てることになっている。しかし、具体的方法は示していない！

大事なことが、書いていない！

実践的な避難所運営訓練の積み重ねで、地域のノウハウを高めて、ベストな方法を見つけていこう！

事前にスペースを区画して避難スペースを割り当てる方式で実施した栄町小の訓練

受け付けた家族数に応じてブルーシートを渡して、順次割り当てる方式で実施した栄小の訓練